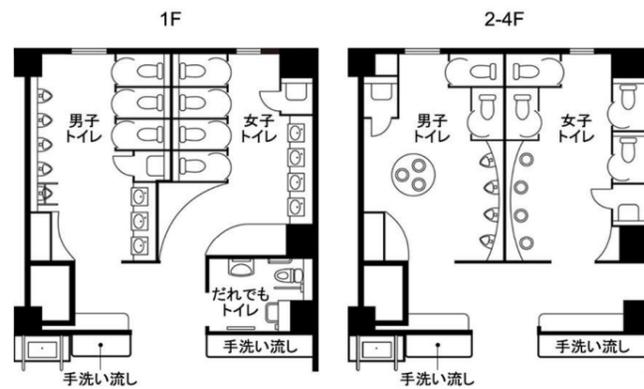


外観



鮮やかな緑色が目を引く増築棟。近年、周辺の宅地開発が進み、児童数が急増したため、既存棟の大規模改修に続いて増築を実施。昇降口の上には、各階にアーチ型の窓を設けた展望ロビーを設置している。

トイレ図面



避難所を想定したトイレの大便器は100%洋式化を推進。1F大便器ブースは規則的な配置にし、2-4Fは、人や物事の多様性を認識して欲しいという設計者の思いから、大便器ブースを不規則に配置している。

大便器ブース



アークスライド方式のブース扉と、前出がコンパクトなパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を組み合わせることでゆとりある空間を確保。将来、暖房便座やウォシュレットを設置することを考慮して電源を用意している。

SKブース



清掃は、児童が1年生から6年生で構成される縦割り班で担当。SK流しは清掃時の使いやすさを考え、できるだけトイレ中央に配置。清掃用具をかけることができるように複数のフックを設置している。

1F トイレ前室



カラーユニバーサルデザインに配慮した大きく見やすいサイン。児童が集まるトイレ前室にはベンチを設け、屋上から1Fに設けた採光ダクトを経由して外光が差し込んだ明るく快適な空間となっている。

1F男子トイレ 全体



壁掛自動洗浄小便器は自己発電・節水タイプ。足元にはハイドロセラ・フロア・PUを設置し、汚れやニオイの発生を抑えている。洗面器は手洗い位置がカウンターより下になり、水はねしにくいボウルを採用している。

1F だれでもトイレ



だれでも快適に使用できる機能として、オストメイト対応トイレパック・ベビーチェア・ベビシート・ウォシュレットを設置。また、大便器は万が一、異物が詰まっても早期復旧が可能な掃除口付きの仕様としている。

1F入口前 手洗い流しコーナー



トイレ前廊下の手洗い流し横には、足元にアプローチスペースを確保した車いす対応洗面を採用し、立位での洗面動作をサポートする手すりを設置。だれもが使いやすい配慮を提供している。(1-4F共通)

2-4F男子トイレ 全体



アイランド型の洗面カウンターと壁の丸い鏡がアクセントの明るくひろびろとした空間。洗面器には、非接触で感染症予防に配慮した自動水栓(自己発電タイプ)を採用している。

2-4F女子トイレ 全体



優しいピンク色と、曲線上の壁に沿って設置した円形のベッセル式洗面器が柔らかい雰囲気を出している。

建築概要

名称	三郷市立幸房小学校 増築棟
所在地	埼玉県三郷市茂田井88番
施主	三郷市
設計	有限会社白石建築設計事務所
施工	＜建築＞ 不動開発株式会社 ＜電気＞ 倉持電気株式会社 ＜機械＞ 株式会社篠田設備
竣工年月	(増築)2017年2月

水まわりの特長

<増築の経緯>
幸房小学校がある三郷市中央エリアは、つくばエクスプレス三郷中央駅周辺の宅地開発で、近年児童数が急増。幸房小学校は2015年に既存校舎の大規模改修を実施し、さらに2017年に新校舎を増築した。今後も児童増加が見込まれているため、将来的な変化に対応できるよう、多目的室などは教室としての利用が可能な仕様としている。教室と幅6mの廊下は間仕切りを開放すると大スペースとして使用することができる。

<トイレの特長>
三郷市のトイレ改修方針である「使い心地の向上(快適・清潔であること)」「やすらぎのある空間づくり」「維持管理が容易」「避難所を想定したトイレ対策」に沿って新校舎のトイレづくりを推進。また、省エネにも配慮し、自己発電・節水タイプの壁掛自動洗浄小便器と自動水栓を採用。大便器は、連続洗浄が可能な4.8L洗浄のパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を設置した。清掃方式は衛生面に配慮できる乾式とし、児童が行う清掃による維持管理を容易にしている。トイレ内は、レイアウトの工夫でゆとりを感じさせる空間をつくりあげ、人が集まり、やすらぎのある場所になるように爽やかな色を選定。トイレ前室のベンチスペースは、屋上から1Fに設けた採光ダクトを経由して外光が差し込んだ明るく快適な空間となっている。